

修復治療の昨日・今日・明日

近代修復治療の夜明けからデンティンボンディングの登場・メンテナンスの再認識・再生医療までを語り尽くす

1960年代初頭のセラモメタルクラウンの登場により世界的なレベルで広まった近代修復治療は、その後、保存修復治療における1980年代のデンティンボンディングシステム登場の影響を受け、今では、かつての歯冠修復治療、かつての保存修復治療というような、修復範囲をもって単純に区別をすることができないような状況となってきた。本シンポジウムでは、半世紀前の修復治療に原点を探り、そしてそれがデンティンボンディングシステムの登場とメンテナンスシステムの向上により、今日の臨床をどのように変えていくかを明らかにし、そして、口腔諸組織に対する再生医療の導入等でこれからの修復治療がどのような未来を迎えようとしているのか遠望する。

開催日時:2006年12月3日(日)9:20~17:30

開催場所:財団法人京大会館楽友会 京大会館 会議室

参加費用:歯科医師 22,000円 その他 10,000円

SJCD会員 20,000円 その他 8,000円 ※消費税、昼食代、テキスト代込み

巨人と創った近代修復治療の夜明け

講演 9:30~11:00 演者 桑田正博



セラモメタルクラウンの基本理論を開発し、さらに世界の歯科をリードしてきた。いわゆるモダンデンティストリーを確立した著名なデンティストとの共同作業による修復治療を通じ、近代修復治療の骨格といえる支台歯形成、クラウンの設計といったことを提唱したこと、そして、その延長線上に現在のオールセラミックスクラウンのシステムを含めたさまざまな修復治療の動きが存在することを講演する。

デンティンボンディングシステムの登場が変えた今日の修復治療

講演 11:20~12:50 演者 伊藤和雄



デンティンボンディングシステムとは象牙質被着面表面にどのような現象を作り出すことなのか、それは接着に有利なエナメル質とどのように異なるのか、妥当な被着面の現象を創出するうえでどのような処置を行えばよいのか、また、そのための材料には何を使用したらよいのか講演する。

メンテナンスセラピーがもたらす修復治療の信頼性

講演 14:00~15:00 演者 岩切明美



修復処置を施す前に歯周環境や歯槽堤粘膜の環境を整えることは前提となるが、そのうえで、修復物装着後も適切にメンテナンスを行うことが、修復治療を安定的に継続させるうえで重要となる。このようにことに関して、実例を交えて講演する。

修復治療の今日、そして明日に向けての課題

講演 15:20~16:50 演者 茂野啓示



上記それぞれの講演を引き取る形で、齲蝕治療、顎機能治療に対するコンポジットレジン修復、ポーセレンラミネートベニア修復、ポーセレンインレー・アンレー修復、クラウン修復の現在を、主に診査・診断さらに修復治療の鑑別診断の点から整理、講演する。そして、今日の修復治療を客観的に観察した場合、それに欠けているもの、できれば実現したいことを、未来への課題として整理、講演する。

ディスカッション 「修復治療の明日」 16:50 ~ 17:30

＜桑田正博・伊藤和雄・岩切明美・茂野啓示／司会:柳与志晴＞